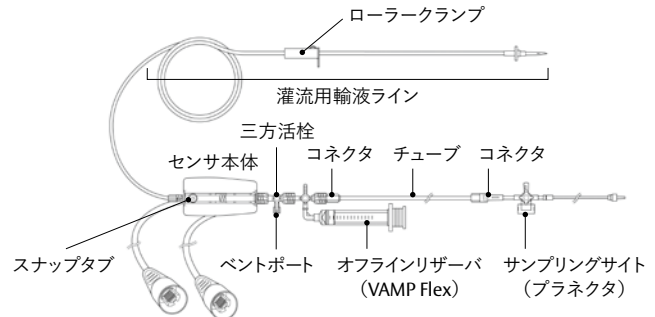


フロートラック センサー使用手順

オフラインリザーバ付キット(MHD180P)

準備するもの

- フロートラック センサー オフラインリザーバ付キット (以下フロートラック) [右図]
- 血圧中継ケーブル
- フロートラック専用のケーブル
- エドワーズ製血行動態モニタ
- プライミング溶液(ヘパリン加生理食塩水等)
- 加圧バッグ
- その他、生体情報モニタ、留置針等



①フロートラックの準備

- 無菌的操作で、フロートラックを取り出します
- 各接続部分がしっかり締まっているか確認します
※接続箇所を締め過ぎた場合、亀裂や漏れを起こすことがあります
- ホルダにフロートラックをセットします
- 血圧中継ケーブルとフロートラック専用のケーブルを、フロートラックおよび生体情報モニタ/エドワーズ製血行動態モニタにそれぞれ接続します

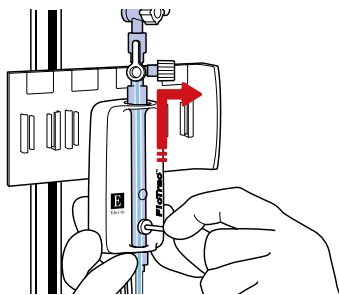
②プライミング溶液の準備

- プライミング溶液(以下、溶液)の輸液バッグから空気を完全に抜きます
- 輸液バッグを加圧バッグに入れます
- 輸液セットのローラークランプを閉じ、輸液セットを輸液バッグに接続します
- 患者から約60cmの高さにバッグを吊り下げます

③プライミング

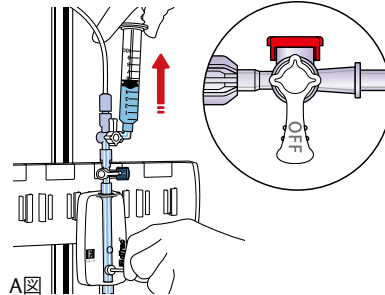
1. センサ本体まで

- 輸液セットのローラークランプを開放します
- 活栓ハンドルを図の向きにします
- スナップタブを引き、図の活栓までライン内を溶液で満たします
- キャップを閉鎖型(青)に付替えます

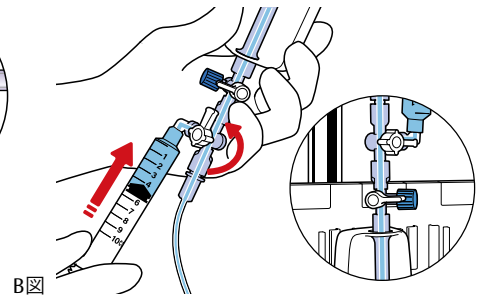


2. リザーバ～プラネクタまで

- 活栓ハンドルをA図の向きにします
- プラネクタの活栓ハンドルがプライム/クリアポジション(円内図)にあることを確認します
- スナップタブを引いてフラッシュしながら、リザーバ内に溶液を10mL満たします

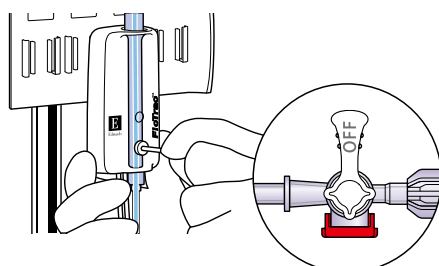


- 活栓ハンドルをB図の向きにします
- リザーバの先端を斜め上に向けて持ちます
- 気泡を抜きながら、リザーバ内の溶液を押し出します
- 気泡がなくなるまで、この作業を繰り返します
- 活栓ハンドルを円内図の向きにします



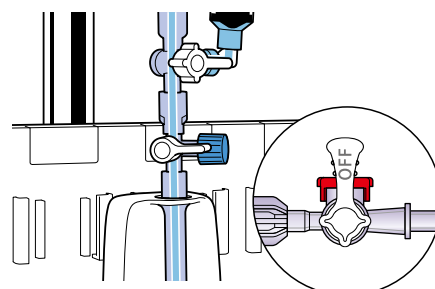
3. プラネクタ部分

- スナップタブを引いて残りの回路を満たします
- サンプルングサイト内の空気が完全に抜けない可能性があるため、円内図のようにサンプルングサイトを下側にして行ってください
- 最後に回路内に気泡がないことを確認してください



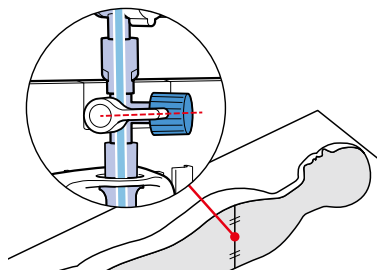
4. ラインの接続

- 輸液バッグを加圧します
- 300mmHg(40kPa)まで加圧した場合、流速は 3 ± 1 ml/hrです
- 留置したカテーテルにフロートラックの先端を接続します
- 医療機関の規定に従って、システムをフラッシュします
- プラネクタの活栓ハンドルを圧モニタリングポジション(円内図)にします

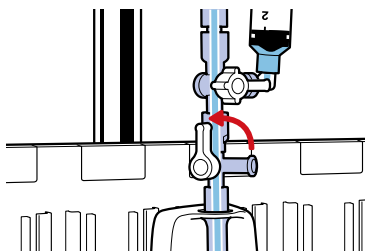


④ ゼロバランス調整および校正

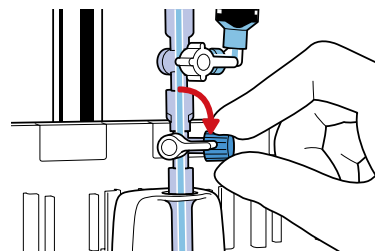
- ベントポートの高さを中腋窩線と第4肋間の交点に合わせます



- ベントポートのキャップを外し、活栓ハンドルを下図の向きにします(大気開放)
- 生体情報モニタとエドワーズ製血行動態モニタのゼロバランス調整を行います



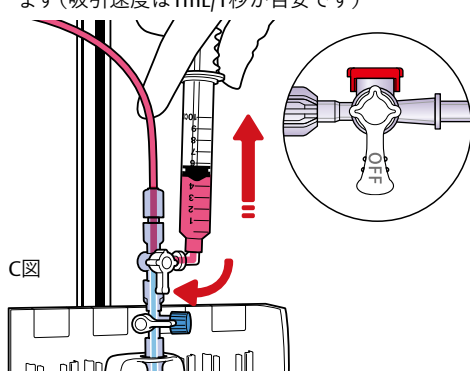
- 活栓ハンドルを下図の向きに戻しキャップを付けます
- 生体情報モニタまたはエドワーズ製血行動態モニタで動脈圧波形を確認してください



⑤ 採血

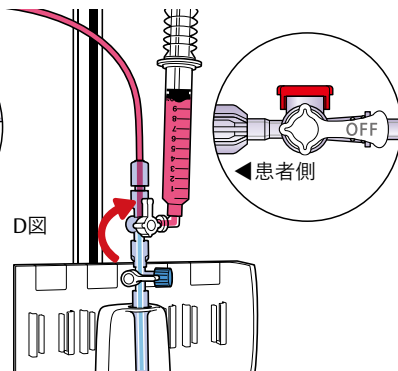
1. 予備吸引

- 活栓ハンドルをC図の向きにし、プラネクタの活栓ハンドルをプライム/クリアポジション(円内図)にします
- プランジャを引いて10mLの予備吸引をします(吸引速度は1mL/1秒が目安です)



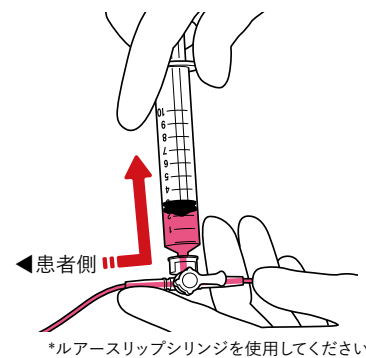
2. 採血準備

- リザーバの活栓ハンドルをD図の向きにし、プラネクタの活栓ハンドルをサンプリングポジション(円内図)にします



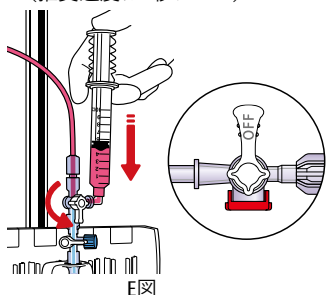
3. 採血

- プラネクタをアルコール等で消毒します
- 採血用シリンジをプラネクタにしっかりと接続します
- ゆっくりとプランジャを引き、採血します



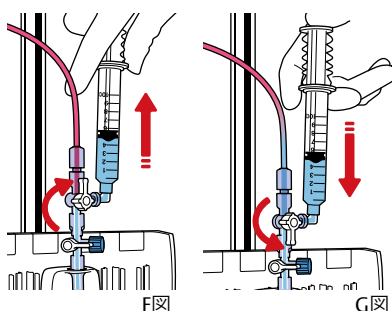
4. 予備吸引の血液を戻す

- 採血後シリンジを垂直に引き抜きます
- プラネクタの活栓ハンドルをプライム/クリアポジション(円内図)にします
- リザーバの活栓ハンドルをE図の向きにします
- ゆっくりとプランジャを押してリザーバ内の溶液を患者に戻します(推奨速度は1秒に1mL)



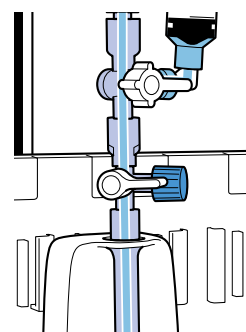
5. リザーバの血液を除去する

- 活栓ハンドルをF図の向きにし、スナップタブを引いて溶液でリザーバを満たします
- 活栓ハンドルをG図の向きにし、回路内をゆっくりフラッシュします
- 回路内がきれいになるまで繰り返します



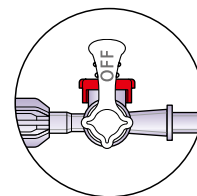
6. ラインの血液を除去する

- リザーバの活栓ハンドルを下図の向きにします
- スナップタブを引いてプラネクタおよびラインをフラッシュします



7. 終了

- 回路内に血液が残っていないことを確認します
- プラネクタの活栓ハンドルをモニターリングポジション(円内図)に戻し、モニターリングを再開します



販売名/認証番号
フロートラック センサー/21700BZY00348000

※ご使用の際には製品の添付文書および取扱説明書を必ずお読みください。
記載事項は予告なく変更されることがありますので予めご了承ください。

Edwards, エドワーズ, Edwards Lifesciences, エドワーズライフサイエンス, 定型化されたEロゴ, FloTrac, フロートラック, VAMP, ヴァンプおよび VAMP FlexはEdwards Lifesciences Corporationまたはその関係会社の商標です。その他の商標はそれぞれの商標権者に帰属します。

© 2024 Edwards Lifesciences Corporation. All rights reserved. EW2024015 2402_2_2000

製品に関するお問い合わせは下記にお願い致します。

製造販売元 **エドワーズライフサイエンス合同会社**

本社: 東京都新宿区北新宿2丁目21番1号 Tel.03-6895-0301
edwards.com/jp



Edwards